

2015 年度 全国総会「東京大会」資料

2015 年 5 月 30／31 日

(於：東京都)

全国頸髄損傷者連絡会

目 次

I	2015 年度 全国総会プログラム	2
II	2014 年度 年間活動報告	
	全国頸髄損傷者連絡会・本部	4
	栃木頸髄損傷者連絡会	5
	東京頸髄損傷者連絡会	6
	神奈川頸髄損傷者連絡会	6
	愛知頸髄損傷者連絡会	7
	頸髄損傷者連絡会・岐阜	8
	京都頸髄損傷者連絡会	9
	大阪頸髄損傷者連絡会	11
	兵庫頸髄損傷者連絡会	13
	香川頸髄損傷者連絡会	15
	愛媛頸髄損傷者連絡会	17
	福島連絡所	17
III	頸損者を取り巻く現状と課題	19
	・ 障害者の権利保障	
	・ 介助制度	
	・ 交通・まちづくり	
	・ 福祉用具(補装具・日常生活用具)	
	・ 医療関係	
	・ 住宅環境	
	・ 所得保障・就労	
IV	2015 年度 活動方針提起(案)	25
	◆全体活動指針	
	◆分野別活動課題	
V	収支報告書／予算案	
	2014 年度 収支報告書	30
	2015 年度 予算案	31

【 2015 年度 全国総会プログラム 】

■会 場

ホテルサンルート有明

〒135-0063 東京都江東区有明3-6-6

※ ワークショップ 年次総会 交流会はホテル2F同会場

※ 13:00~17:00 支援機器展示

■スケジュール

5月30日（土曜日）

- 13:00 受付開始（ホテル2F）
- 13:15 全国総会「東京大会」開始
開催挨拶
- 13:30 ワークショップ開始
- 15:00 ワークショップ終了
休憩
- 15:15 年次総会開始
開会挨拶
総会成立可否確認
議長選出
14年度・本部・支部活動報告
14年度・財政報告&質疑応答
15年度・年間活動方針提起・審議
15年度・予算案審議
役員改選
閉会挨拶・事務連絡
- 17:00 総会終了
- 17:45 レセプション受付開始
- 18:00 レセプション開始
- 20:30 レセプション終了 事務連絡

5月31日（日曜日）

- 10:00 女性頸損者交流会（於：ホテル 女性のみ自由参加）
- 12:00 交流会終了
全日程終了

緊急連絡先 090-2724-5574（鴨冶） 090-4918-4316（石毛）

年間活動報告

全国頸髄損傷者連絡会・本部

【2014年】

- 4月 機関誌『頸損』112号発行
- 4月20日 日本リハビリテーション工学協会 関西支部 第3回セミナー（兵庫県神戸市）
- 4月21／22日 D P I ・三澤了さんの遺志を継ぐ会（衆議院第一議員会館・日比谷公園他）
フォーラム・偲ぶ会・条約批准パレード
- 5月17日 機関誌『頸損』113号、1回目編集会議
- 5月23～25日 第17回国際福祉健康産業展～ウェルフェア2014～
（ポートメッセなごや・名古屋市国際展示場）
- 5月31日 J D政策会議2014（東京・戸山サンライズ）
- 6月1日 排泄ワークショップ（国立障害者リハビリテーションセンター）
- 6月6／7日 全国頸損連絡会全国総会・兵庫大会（神戸市勤労会館）
- 6月10日 バリアフリーチェック（代々木体育館）
- 6月15／16日 D P I 日本会議全国集会 in 静岡（清水マリナート）
- 6月26日 “病床転換型居住系施設” 反対集会（東京・日比谷野音）
- 7月15日 バリアフリーチェック（東京体育館）
- 7月16日 バリアフリーチェック（有明テニスの森・コロシウム）
- 7月19日 機関誌『頸損』113号、2回目編集会議
- 7月20日 排泄ワークショップ（東京・日比谷図書文化会館）
- 8月 機関誌『頸損』113号発行
- 8月3日 排泄ワークショップ（東京ビッグサイト）
- 8月3日 東京・神奈川頸損交流会（横浜市）
- 8月5日 バリアフリーチェック（日本武道館）
- 8月6日 バリアフリーチェック（東京ビッグサイト）
- 8月24～27日 第29回リハビリテーション工学カンファレンス（広島国際大学呉キャンパス）
- 8月30／31日 D P I 常任委員会
- 9月4日 2020年東京オリンピック&パラリンピック提言会議（以下略：オリパラ提言会議）
- 9月13日 頸損連絡会代表者会議（東京・有明）
- 9月27日 機関誌『頸損』114号、1回目編集会議
- 10月1～3日 国際福祉機器展（東京ビッグサイト）
- 10月2日 オリパラ提言会議／D P I バリアフリー部会
- 10月4／5日 頸損4都県・はがき通信 合同交流会 被災地視察と懇親交流会（福島県）
4月から10月まで上記準備活動
- 10月11／12日 D P I 常任委員会
- 10月18日 国立障害者リハビリテーションセンター・並木祭 ブース出展（埼玉所沢市）
- 10月30日 全国大行動フォーラム（日比谷）
- 11月6日 D P I バリアフリー部会
- 11月9～13日 第5回国際ユニヴァーサルデザイン会議2014 in 福島&東京
（東京国際交流館、日本科学未来館）

- 11月11日 マラケシュ条約勉強会（新宿区・盲人協会）
- 11月15日 機関誌『頸損』114号、2回目編集会議
- 11月20日 オリパラ提言会議
- 11月27日 在京民鉄交渉（東京都障害者総合スポーツセンター）
- 12月 機関誌『頸損』114号発行
- 12月 5日 国交省交渉
- 12月11日 東京バス協会交渉（東京都障害者福祉会館）
- 12月13／14日 第3回DPI障害者政策討論集会（東京・戸山サンライズ）
- 12月20／21日 DPI常任委員会
- 12月24日 DPIバリアフリー部会

【2015年】

- 1月 7日 DPIバリアフリー部会
- 1月17日 機関誌『頸損』115号、1回目編集会議
- 1月28日 DPIバリアフリー部会
- 1月30日 都営交通交渉
- 2月 1日 呼ネットフォーラム（東京フォーラム）
- 2月19日 オリパラ提言会議
- 2月21／22日 DPI常任委員会
- 2月24日 口と足で描く芸術家協会・企画展 見学・機関誌取材（東京・新宿）
- 2月25日 DPIバリアフリー部会
- 3月 4日 院内集会「オリパラ学習会」（衆議院第一議員会館）
- 3月 8日 頸損連絡会代表者会議（愛知県名古屋市）
- 3月10日 JR東日本交渉（新宿区 本社）
- 3月14日 機関誌『頸損』115号、2回目編集会議
- 3月21日 リハ工学協会・全国頸損 第4回合同シンポジウム（大阪）
- 4月 6日 オリパラ提言会議／DPIバリアフリー部会
- 4月18／19日 DPI常任委員会

栃木頸髄損傷者連絡会

- 6月 栃木支部総会
- 10月 支部交流会（食事会）ロマンチック村
- 10月 4県合同交流会（福島県）
- 11月 福祉運動会
- 11月 障がい者文化祭（カルフルとちぎ）

※ 月例会：毎月第二日曜日 とちぎ福祉プラザ

東京頸髄損傷者連絡会

- 4月 5日 お花見会 戸山公園 戸山多目的運動広場
- 4月26日 役員会（練馬 Coconeri）
- 5月24日 東京頸髄損傷者連絡会総会（戸山サンライズ）
- 6月7／8日 全国頸髄損傷者連絡会全国総会（神戸市勤労会館）
- 7月 9日 第一回 東京都障害者社会参加推進協議会 東京都障害者福社会館
- 7月 事務局通信 お江戸くちはっちょう発行
- 7月11／12日 ヨコハマ・ヒューマン&テクノランド2014 パシフィコ横浜
- 8月 3日 神奈川頸損連絡会との合同食事会 横浜
- 8月30日 役員会及び東京大会実行委員会 新宿区障害者福祉センター
- 9月13日 全国頸損代表者会議（ビッグサイト会議室）
- 10月1～3日 第41回国際福祉機器展 H.C.R.2014 東京ビッグサイト
- 10月4／5日 東日本頸損交流会及び車椅子用仮設住宅視察等（コラッセ福島）
- 10月11日 役員会及び東京大会実行委員会 Coconeri(練馬)
- 10月18日 国立障害者リハビリテーションセンター並木祭 参加
- 11月 9日 役員会及び東京大会実行委員会 Coconeri(練馬)
- 11月24日 勉強会 「生きていく」上映会 Coconeri(練馬)
- 11月27日 民鉄・第三セクター事業者交渉参加（交通行動東京実行委員会）
- 11月 事務局通信 お江戸くちはっちょう発行
- 12月11日 バス協会事業者交渉参加（交通行動東京実行委員会）
- 1月 3日 役員会及び東京大会実行委員会 石神井公園
- 1月31日 新年会 ホテルサンルート有明(総菜パティオ)
- 3月 事務局通信 お江戸くちはっちょう発行
- 3月 8日 全国頸損代表者会議 なごや福祉用具プラザ 会議室
- 3月19日 役員会及び東京大会実行委員会 竹ノ塚

※2015年度全国総会東京大会に向けての運営実行委員会を必要に応じて行いました。

※その他、他団体との連携及び活動・集会・アピール行動等に参加しました。

神奈川頸髄損傷者連絡会

【2014年】

- 06月22日 大和ふれあいキャンプ場、バーベキューの予約
定例総会 厚木福祉センター

- 08月03日 東京&神奈川・交流会 横浜（参加者51名）
- 08月24日 サロン de GO 厚木福祉センター
- 09月13日 代表者会議 東京・お台場
- 09月21日 バーベキュー大会 中止
- 09月27日 葉話友109号の編集 星野宅
- 10月04, 05日 4都県合同交流会 福島
- 10月12日 サロン de GO 厚木福祉センター
- 10月25日 七沢更生ホーム文化祭
- 11月15日 神奈川工科大学「ロボットセミナー」
- 11月16日 栄養管理・研修会 川崎
- 11月30日 サロン de GO 厚木福祉センター
- 12月21日 新年会の下見 レンブラントホテル厚木
- 【2015年】
- 01月18日 葉話友110号の編集 星野宅
- 02月01日 新年会 レンブラントホテル厚木（参加者30名）
- 02月15日 サロン de GO 厚木福祉センター
- 03月01日 機関誌（葉話友）企画 村上さん宅訪問
- 03月08日 代表者会議 名古屋03月29日 定例会
- 04月05日 葉話友111号の編集 星野宅
- 04月12日 サロン de GO 厚木福祉センター

愛知頸髄損傷者連絡会

平成26年

- 4月20日 春のレクリエーション
「春だ！苺だ！バーベキュー！」
(マリモファーム・魚太郎)
- 5月24日 「ウェルフェア2014」に参加
(名古屋市国際展示場)
- 6月 7日・8日 全国頸損連総会「兵庫大会」 (神戸市勤労会館)
- 15日 第15回愛知頸損連 総会 (A J U自立の家)
- 7月21日 「地域福祉セミナー」に参加 (高齢者就労支援センター)
- 8月24日 ナイトツアー (名古屋港水族館)
- 10月 5日 名古屋シティ・ハンディマラソン (久屋大通公園周辺)
- 12日 「通天閣界限散策ツアー」 (台風のため中止)
- 11月 3日 ワインフェスタ2012 (多治見修道院ワイナリー)
- 12月14日 忘年会 (ガス燈 今池ガスビル)

平成27年

- 1月25日 新年会 (浩養園 五合庵)
3月6日 全国代表者会議 (なごや福祉用具プラザ)
29日 勉強会「高齢障害者と介護保険」 (A J U自立の家)

頸髄損傷者連絡会・岐阜

【2014年】

- 4月17日 夢旅人臨時号 発行
5月18日 26年度第1回役員会
5月26日 夢旅人5月号 発行
6月8日～9日 全国頸損連絡会総会 兵庫大会
6月19日 夢旅人6月号 発行
6月22日 26年度頸髄損傷者連絡会・岐阜 総会
場所 JR岐阜駅北 じゅうろくプラザ 4F 研修室2
7月13日 懇親会 BBQ
場所 《養老ミート うまいもん広場》
7月13日 26年度第2回役員会
場所 奥の細道むすびの地記念館 多目的室1-2
8月7日 夢旅人7月号 発行
8月24日 26年度第3回役員会
9月4日 夢旅人8月号 発行
9月13日 代表者会議(東京)
9月25日 夢旅人9月号 発行
9月28日 勉強会
場所 JR岐阜駅北 じゅうろくプラザ 2F 研修室6
10月16日 夢旅人10月号 発行 夢旅人機関誌
機関誌「夢旅人Vol.25」発刊
10月19日 中濃地区懇親会
場所 《可児市 花フェスタ》
11月30日 忘年会
場所 《岐阜市 JR岐阜駅北 じゅうろくプラザ1階
レストラン「ラ・ローゼ・プロヴァンス」》

【2015年】

- 3月7日 代表者会議(名古屋)

京都頸髄損傷者連絡会

【2014年】

- 4月 1日 女性部会
- 4月 4日 障害者権利条約の批准と完全実施をめざす京都実行委員会役員会
- 4月 5日 京都頸髄損傷者連絡会定例会
- 4月23日 女性部会
- 4月20日 京都バリアフリー連絡会
- 4月21日 三澤了さんの遺志を継ぐ会・偲ぶ会
- 4月27日 京都頸髄損傷者連絡会定期総会
- 4月30日 生活保護を考えるシンポジウム
- 5月10日 きょうされん定期総会
- 5月10日 京都頸髄損傷者連絡会定例会
- 5月14日 障害者権利条約の批准と完全実施をめざす京都実行委員会役員会
- 5月20日 障害のある女性勉強会
- 5月21日 京都市役所陳情
- 5月22日 障害者権利条約の批准と完全実施をめざす京都実行委員会定期総会
- 6月 7日～8日 全国頸髄損傷者連絡会兵庫大会
- 6月14日～15日 D P I 日本会議静岡大会
- 6月22日 京都リハビリテーションセンター交流会
- 6月24日 障害者権利条約の批准と完全実施をめざす京都実行委員会定例会
- 7月 5日 京都頸髄損傷者連絡会定例会
- 7月 8日 京都バリアフリー連絡会
- 7月10日 京都市障害者施策推進審議会
- 7月15日 条例ガイドライン作業部会
- 7月17日 京都府庁障害者支援課陳情
- 7月31日 障害者権利条約の批准と完全実施をめざす京都実行委員会定例会
- 8月 4日 京都大学 iPS 細胞研究所見学
- 8月 9日 京都頸髄損傷者連絡会定例会
- 8月11日 条例ガイドライン作業部会
- 8月23日 夏の懇親会
- 8月26日 障害者権利条約の批准と完全実施をめざす京都実行委員会役員会
- 9月 6日 京都頸髄損傷者連絡会定例会
- 9月 9日 障害者権利条約の批准と完全実施をめざす京都実行委員会役員会
- 9月10日 京都府庁障害者支援課陳情
- 9月13日 代表者会議
- 9月17日 京都府条例ミーティング
- 9月25日 京都府庁障害者支援課陳情
- 10月 3日 女性部会
- 10月 4日～5日 福島県合同交流会

- 10月 8日 障害者権利条約の批准と完全実施をめざす京都実行委員会定例会
- 10月11日 京都頸髄損傷者連絡会定例会
- 10月12日 大阪頸損連・京都頸損連合同交流会
- 10月15日 京都市式典
- 10月26日 京都市リハビリテーションセンター交流会
- 10月29日 障害者権利条約の批准と完全実施をめざす京都実行委員会役員会
- 10月30日 京都市行政交渉
- 11月 1日 京都頸髄損傷者連絡会定例会
- 11月 3日 条例ガイドライン作業部会
- 11月 5日 京都府庁障害者支援課陳情
- 11月 7日 女性部会
- 11月12日 障害者権利条約の批准と完全実施をめざす京都実行委員会役員会
- 11月15日 頸損女子会 USJ バリアフリー観光
- 11月20日 障害者権利条約の批准と完全実施をめざす京都実行委員会定例会
- 11月25日 京都バリアフリー連絡会
- 11月29日 京都市知的障害児・者福祉研修会
- 12月 4日 女性部会
- 12月 6日 第二回京都デザインフォーラム
- 12月 7日 京都市リハビリテーションセンター交流会
- 12月13日～14日 D P I 障害者政策討論集会
- 12月20日 忘年会

【2015年】

- 1月13日 障害者権利条約の批准と完全実施をめざす京都実行委員会役員会
- 1月17日 京都頸髄損傷者連絡会定例会
- 1月17日 新年会
- 1月20日 応益負担反対実行委員会
- 1月29日 障害者権利条約の批准と完全実施をめざす京都実行委員会定例会
- 2月 4日 京都府障害者施策推進協議会
- 2月 4日 女性部会
- 2月 5日 障害者権利条約の批准と完全実施をめざす京都実行委員会役員会
- 2月14日 京都頸髄損傷者連絡会定例会
- 2月25日 京都府障害者雇用等セミナー
- 2月26日 介護保障を考える弁護士と障害者の会京都弁護団報告会
- 2月26日 応益負担反対実行委員会
- 3月 6日 条例ガイドライン作業部会
- 3月 7日 京都頸髄損傷者連絡会定例会
- 3月 8日 代表者会議
- 3月14日 京都市地域リハビリテーション交流セミナー
- 3月17日 障害者権利条約の批准と完全実施をめざす京都実行委員会定例会
- 3月18日 女性部会

- 3月19日 京都市障害者施策推進審議会
- 3月21日 日本リハ工学合同シンポジウム
- 3月24日 京都バリアフリー連絡会
- 3月25日 心のバリアフリーサポーター養成講座
- 3月28日 国際障害者年連続シンポジウム
- 3月29日 「共に安心して暮らしやすい京都を」街頭演説&パレード

○定例会:毎月第一土曜日

○障害者権利条約の批准と完全実施をめざす京都実行委員会:隔月(1・3・5・7・9・11)

○女性部会:隔月

大阪頸髄損傷者連絡会

－ 2014年度活動総括－

● 昨年度は、神戸市の三宮で全国頸損の総会として兵庫大会が実施され大阪のメンバーも実行委員として参加した。2016年に施行される障害者差別解消法に向けて当事者自身が「何が差別なのか？」を考えよう－をテーマにグループディスカッションが行われ、この大会からつながるようなかたちで、大阪府でも「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律の制定を踏まえた、大阪府における障がい者を理由とする差別の解消に向けた取組みについて」という提言(事務局通信 NO.105、頸損だより NO.132・133 に掲載、NO.134 に掲載予定)が示され、障害者団体へ意見募集があり大阪支部からも意見提出をした。

● 会員へ向けて情報発信ツールである頸損だよりでは、頸損者にとって大切な情報を特集として扱っている。中でも特集「頸損で、学生生活をするとということ」を読まれた大学の先生が、頸髄損傷になった学生の復学の可能性を知り、復学を勧められて現在週4日の通学を始められている。このように機関紙をきっかけとして復学に繋がったことは特集を組む上で大きな原動力となった。

● 勉強会では、「頸損ピアサロン」で地域で暮らす頸損者に、受傷から退院後の生活や家族旅行などの楽しい日々から、一人で暮らしたみたいと気持ちが変わり実際に一人暮らしを始めるまでの様子、今後の目標などを語ってもらった。実家周辺や沿線にある多くの不動産屋を回り、時間をかけて数十件の物件を見学しながら住まい探しをするところは、これから一人暮らしをしようと考えている参加者にとっては貴重な情報となった。

● 親睦交流企画では、7月にビアガーデン交流会、10月に京都頸損連絡会と合同でカラオケ大会が開催され、1月には恒例の新年会を今回も実行委員会形式で企画準備を行い、多数の大阪府立大作業療法学専攻の学生たちの協力を得ながら進めた。当日は全体で100名を超える参加があり、会員を中心とした頸損者の非常によい交流の場となった。外出・まちあるきの企画としては、3月に春レクとして「ぶらり新世界&天王寺界限」を開催、あいにくの雨模様だったが18名の参加があり、午後からは雨も上がりみんなのパワーを感じられる企画となった。

● ピアサポートとしては、これまで継続して取り組んできた、会員が入院中の頸損者に自分の受傷後の体験を伝える星ヶ丘医療センターでのサポートを3回行い、その他にも個別に相談対応をしたり、外出や余暇活動をとにするセルフヘルプ活動も、役員や事務局メンバーを中心に取り組んだことなどが、特筆すべき点である。

－ 2014年度活動報告－

※なお、主催☆、共催★、参加◆とする

◎親睦交流企画・他

- ☆ 7 / 27 (日) ビアガーデン交流会
- ◆ 9 / 21 (日) 兵庫頸損BBQ大会
- ★ 10 / 12 (日) 大阪京都頸損合同交流・カラオケ大会
- ◆ 11 / 8 (土) 兵庫・臨時総会
- ◆ 12 / 13 (土) 兵庫頸損忘年会
- ☆ 1 / 18 (日) 新年会「めえ～でたい 年がやって来ウ～～ル」
- ☆ 3 / 29 (日) 春レク「ぶらり新世界&天王寺界限」

◎勉強会

- ★ 6 / 28 (土) 星ヶ丘医療センターピアサポート「受傷後の経験談あれこれ Part29」
- ☆ 8 / 24 (日) 勉強会「65才からの介護保険への移行を考える ①」
- ☆ 8 / 31 (日) 頸損ピアサロン&交流会
- ★ 11 / 22 (土) 星ヶ丘医療センターピアサポート「受傷後の経験談あれこれ Part30」
- ★ 2 / 28 (土) 星ヶ丘医療センターピアサポート「受傷後の経験談あれこれ Part31」

◎相談対応 12件

◎セルフヘルプ対応（個人宅や病院訪問、一緒に外出するなど） 延べ9件

◎機関紙発行 頸損だより 4回発行

- ・ 6 / 22 (日) 頸損だより発送
特集 頸損ピアサロン
「頸損で、学生生活をするということ」
- ・ 10 / 19 (日) 頸損だより発送
兵庫大会に寄せて
- ・ 12 / 14 (日) 頸損だより発送
特集続編「リハビリなどについて 疑問質問編」
- ・ 3 / 22 (日) 頸損だより発送
特集 頸損ピアサロン「四肢マヒの私が地域で暮らして」

事務局通信 4回発行

- ・ 4 / 20 (日) 事務通発送
- ・ 7 / 13 (日) 事務通発送
- ・ 9 / 7 (日) 事務通発送
- ・ 2 / 8 (日) 事務通発送

◎役員会

- ・ 4 / 20 (日) 4月期役員会
- ・ 5 / 11 (日) 5月期役員会
- ・ 6 / 22 (日) 6月期役員会
- ・ 10 / 19 (日) 10月期役員会
- ・ 11 / 9 (日) 11月期役員会
- ・ 12 / 14 (日) 12月期役員会

- ・ 7 / 13 (日) 7月期役員会
 - ・ 8 / 10 (日) 8月期 (台風で中止)
 - ・ 9 / 7 (日) 9月期役員会
- ・ 1 / 11 (日) 1月期役員会
 - ・ 2 / 8 (日) 2月期役員会
 - ・ 3 / 22 (日) 3月期役員会

◎会議等

- ◆ 4 / 19 (土) 兵庫頸損連絡会支部総会
- ☆ 4 / 27 (日) 大阪頸損連絡会支部総会
- ◆ 6 / 7 ~ 8 (土・日) 全国頸損連絡会総会・兵庫大会
- ◆ 8 / 5 (火) 対大阪府オールラウンド交渉①
- ◆ 8 / 7 (木) " ②
- ◆ 9 / 13 (土) 全国頸損連絡会代表者会議 i n 東京
- ◆ 10 / 4 ~ 5 (土・日) 4県 (福島・栃木・東京・神奈川) 合同交流会 i n 福島
- ◆ 11 / 17 (月) 対大阪市オールラウンド交渉①
- ◆ 11 / 25 (火) " ②
- ◆ 3 / 8 (日) 全国頸損連絡会代表者会議 i n 名古屋
- ◆ 3 / 21 (土) 全国頸損+リハ工カンファレンス・合同シンポジウム「一緒にやろうや住」

◎実行委員会・準備会

- ◆ 全国頸髄損傷者連絡会総会・兵庫大会
4 / 5、4 / 12、4 / 19、4 / 26、5 / 3
5 / 17、5 / 24、5 / 31、6 / 28 (打上げ)
- ☆ 大阪頸損連 新年会実行委員会
11 / 29、12 / 6、12 / 20、1 / 10 (新年会決起集会)
- ◆ 全国頸損+リハ工カンファレンス・合同シンポジウム
12 / 21、2 / 21

◎その他

- ☆ 頸損連呼吸器使用メンバー情報交換&交流会
第22回 6 / 22 (西宮総福センター)
第23回 10 / 26 (宝塚ラウンドワン)
- ◆ 10 / 1 (水) 楠敏雄・偲ぶ会
- ◆ 10 / 18 (土) なんばおにごっこ

兵庫頸髄損傷者連絡会

支部活動

2014(平成26年)

.4.5~6	日本リハビリテーション工学協会・機関誌編集委員会(新横浜)(土田)
.4.13	バリアフリー観光調査(南京町)(米田・島本卓・土田)
.4.17~19	バリアフリー2014(インテックス大阪)(坂上・宮野)
.4.19	兵庫頸損連絡会・支部総会
.4.20	大阪頸損連絡会・役員会(CILあるる)(坂上・土田)
.4.20	リハ工学協会関西支部・第3回セミナー(JASPEC・ポートアイランド)(宮野)
.4.21	神戸大学医学部保健学科「リハビリテーション工学福祉用具学」講義(宮野)
.4.27	大阪支部総会(CILあるる)(坂上・土田)

. 5. 1	バリアフリー観光調査(北野)(土田)
. 5. 1	関西学院大学・人権教育科目 006「障害と人権」頸髄損傷者と自立生活 講師(坂上)
. 5. 8	関西学院大学・人権教育科目 006「障害と人権」自由に活動できるまちづくり 講師(坂上)
. 5. 11	大阪頸損連絡会・役員会(CIL ある)(土田)
. 5. 11	バリアフリー観光調査(三宮)(坂上)
. 5. 13	バリアフリー観光調査(三宮)(坂上)
. 5. 20	甲子園短期大学「障害福祉論」講義(宮野)
. 5. 20	バリアフリー観光調査(神戸市役所)(坂上)
. 5. 29	神戸医療福祉専門学校・三田校・OT コース「リハビリテーション概論講義」講義(宮野)
. 6. 7~8	全国頸損連絡会総会・兵庫大会(坂上・宮野・赤尾・島本義・杉本・木戸・中地・米田・土田・島本卓)
. 6. 21	しあわせの村事前調査(神戸市)(米田)
. 6. 22	第 22 回人工呼吸器使用者交流会(西宮市総合福祉センター)(米田)
. 6. 22	大阪頸損連絡会・役員会(CIL ある)(土田)
. 6. 28~29	日本リハビリテーション工学協会・機関誌編集委員会(新大阪)(土田)
. 7. 3	兵庫頸損連絡会・しあわせの村宿泊体験合宿打ち合せ(島本卓・土田)
. 7. 13	大阪頸損連絡会・役員会(CIL ある)(土田)
. 7. 19~20	兵庫頸損連絡会・しあわせの村宿泊体験合宿(神戸市)(坂上・米田・橘・中川・土田・島本卓・森内)
. 7. 25	第 10 回神戸リカバリー研究会(神戸市産業振興センター)(宮野)
. 7. 27	大阪頸損連絡会・ピアガーデン交流会(大阪駅前第一ビル)(坂上・土田)
. 8. 23	兵庫頸損連絡会・秋の大バーベキュー~大会打ち合せ(明石)(米田・島本卓・土田)
. 8. 24	頸損者セルフヘルプ面会(大阪)(米田)
. 8. 22~23	日本リハビリテーション工学協会・車いす SIG 講習会講師(広島市)(宮野)
. 8. 25~27	第 29 回リハビリテーション工学カンファレンス in 広島(呉市)(宮野・土田)
. 8. 31	大阪頸損連絡会・ピアサロン(土田)
. 9. 4	頸損者セルフヘルプ面会(尼崎市)(宮野)
. 9. 7	大阪頸損連絡会・役員会(CIL ある)(土田)
. 9. 13	秋の代表者会議(東京ビッグサイト)(宮野)
. 9. 13	兵庫頸損連・行事企画打ち合わせ(三田市)
. 9. 21	兵庫頸損連絡会・秋の大バーベキュー~大会(明石市大蔵海岸・バーベキューサイト)
. 10. 1~3	国際福祉機器展(東京ビッグサイト)(宮野・土田)
. 10. 4	兵庫頸損連・忘年会会場探し(神戸市)(米田)
. 10. 4~5	日本リハビリテーション工学協会・機関誌編集委員会(新大阪)(土田)
. 10. 4~5	合同交流会(福島県)(宮野)
. 10. 5	頸損者セルフヘルプ面会(大阪)(米田)
. 10. 5	兵庫頸損連・忘年会会場探し(島本卓)
. 10. 17	第 11 回神戸リカバリー研究会(神戸市産業振興センター)(宮野)
. 10. 18	兵庫頸損連・忘年会会場探し(三宮・明石)(米田・山本・島本卓)
. 10. 18	神戸学院大学・社会人キャリアアップ講座 講師(宮野)
. 10. 19	大阪頸損連絡会・役員会(CIL ある)(土田)
. 10. 25	兵庫頸損連絡会・秋の大バーベキュー~大会反省会(NPO 法人ぼしぶる)
. 10. 26	第 23 回人工呼吸器使用者交流会(宝塚)(米田)
. 11. 8	兵庫頸損連・臨時総会(西宮市若竹会館)
. 11. 9	大阪頸損連絡会・役員会(CIL ある)(土田)
. 11. 22	大阪頸損連絡会・ピアサポート(星ヶ丘)(土田)
. 11. 29	兵庫頸損連絡会・機関誌「縦横夢人」発送作業(NPO 法人ぼしぶる)(米田・島本卓・山本・土田)
. 11. 30	頸損者セルフヘルプ面会(西宮市)(米田)
. 11. 30	兵庫頸損連絡会・忘年会会場最終打ち合わせ(明石市)(島本卓)
. 12. 6	神戸学院大学・社会人キャリアアップ講座 講師(宮野)
. 12. 13	兵庫頸損連絡会・忘年会(明石市・天府真味)
. 12. 14	大阪頸損連絡会・役員会(CIL ある)(土田)

2015(平成 27 年)

. 1. 10~11	日本リハビリテーション工学協会・機関誌編集委員会(新横浜)(土田)
. 1. 17	兵庫頸損連絡会・機関誌「縦横夢人」編集会議(NPO 法人ぼしぶる)(米田・島本卓・土田)
. 1. 18	大阪頸損連絡会・新年会(長居)
. 1. 18	頸損者セルフヘルプ面会(大阪)(米田)

. 1. 18	宝塚障害者フォーラム 2015 宝塚市の障害者権利条例制定に向けて～合理的配慮を考える～(宝塚市)(木戸)
. 1. 21	第 12 回神戸リカバリー研究会(神戸市産業振興センター)(宮野)
. 2. 4	B. E. S. T 研修講師(三ノ宮)(土田)
. 2. 7	兵庫頸損連絡会・機関誌「縦横夢人」発送作業(NPO 法人ぼしぶる)(米田・島本卓・山本・土田)
. 2. 8	大阪頸損連絡会・役員会(CIL あるる)(土田)
. 3. 2	兵庫県福祉用具専門部会(兵庫リハ)(宮野)
. 3. 8	映画「風は生きよという」大阪上映会&座談会 人工呼吸器ライフも悪くないよ☆～地域啓発フォーラム～(米田)
. 3. 16	福祉用具フェスティバル 2015(兵庫県立総合リハビリテーションセンター)(宮野)
. 3. 22	大阪頸損連絡会・役員会(CIL あるる)(土田・島本卓)

全国総会・兵庫大会実行委員会

2014. 4. 5	第 14 回 全国総会・兵庫大会実行委員会(神戸市勤労会館)
2014. 4. 12	全国総会・ボランティア講習会(神戸市勤労会館)
2014. 4. 19	第 15 回 全国総会・兵庫大会実行委員会(神戸市勤労会館)
2014. 4. 19	全国大会直前決起集会(ニューミュンヘン神戸大使館)
2014. 4. 26	全国総会・ボランティア講習会(神戸市勤労会館)
2014. 5. 3	第 16 回 全国総会・兵庫大会実行委員会(明石市男女共同参画センター)
2014. 5. 17	第 17 回 全国総会・兵庫大会実行委員会(西宮市中央公民館)
2014. 5. 24	第 18 回 全国総会・兵庫大会実行委員会(明石市男女共同参画センター)
2014. 5. 29	全国総会・講師打ち合わせ(マイドーム大阪)
2014. 5. 31	第 19 回 全国総会・兵庫大会実行委員会(西宮市中央公民館)
2014. 6. 7~8	2014 年度全国頸髄損傷者連絡会総会・兵庫大会(神戸市勤労会館)
2014. 6. 28	第 20 回 全国総会・兵庫大会実行委員会・反省会&打ち上げ(NPO 法人ぼしぶる)

合同シンポジウム・実行委員会

2014. 12. 21	第 1 回 合同シンポジウム実行委員会(川村義肢株式会社エイドセンター大阪)
2015. 2. 21	第 2 回 合同シンポジウム実行委員会(川村義肢株式会社本社)
2015. 3. 21	全国頸髄損傷者連絡会・日本リハビリテーション工学協会 第 4 回合同シンポジウム(川村義肢株式会社本社大ホール)
2015. 3. 21	合同シンポジウム打ち上げ(香港海鮮飲茶樓 住道オペラパーク店)

原稿執筆活動

全国機関誌	・頸損「No. 113『兵庫大会を終えて』(土田)、『私たちの“神戸”バリアフリーチェック』(米田、土田、島本卓、中地)
兵庫支部機関誌	・縦横夢人 冬 6 号 『秋の大バーベキュー大会』(中川淳子、島本卓、山本)、『第 41 回国際福祉機器展 H. C. R2014 報告』(土田)、『人工呼吸器使用者情報交換から見えてきたこと』(米田)、『頸損チンコンひとり股旅』(宮野) ・縦横夢人 新春 7 号 『忘年会』(山本、島本卓)、『初詣』(土田)、『初めての沖縄』(米田、土田)
大阪支部機関誌	・頸損だより No. 132『ブレス to ボイス第 19 回』(米田)、『カラオケ大会』(土田)

香川頸髄損傷者連絡会

2014 年・平成 26 年	
4 月 6 日 (日)	お花見・役員会 丸亀・ひまわりセンター 参加者 会員 8 名 介助者 7 名
5 月 22 日 (木)	香川障がいフォーラム総会 高松・リハセン 参加者 会員 1 名 介助者 1 名
5 月 24 日 (土)	総会 高松・リハセン 参加者 会員 12 名 委任状 8 名 会員総数 26 名

6月1, 2日 日月	全国脊損総会神奈川県大会 参加者 会員 1名 介助者 1名	神奈川県
6月7, 8日 土日	全国頸損総会兵庫大会 参加者 会員 2名 介助者 2名	兵庫県
7月26日 (土)	褥瘡とまきづめの勉強会 参加者 会員 10名 介助者 7名	香川労災病院
8月7日 (木)	香川障がいフォーラム 参加者 会員 1名 介助者 1名	高松・リハセン
9月20, 21日 土日	愛媛1泊旅行 参加者 会員 7名 介助者 8名	愛媛県
9月24日 (木)	香川障がいフォーラム 参加者 会員 1名 介助者 1名	高松・リハセン
10月16日 (木)	香川障がいフォーラム 参加者 会員 1名 介助者 1名	高松・リハセン
10月26日 (日)	役員会 参加者 会員 3名 介助者 2名	丸亀・ひまわりセンター
11月16日 (日)	四国頸損の集い 参加者 会員 4名 介助者 4名	愛媛・四国中央市
11月28日 (金)	中四国ブロック支部長会議 参加者 11名	高松・リハセン
12月18日 (木)	香川障がいフォーラム 参加者 会員 1名 介助者 1名	高松・リハセン
2015年・平成27年		
1月18日 (日)	新年会 参加者 会員 10名 介助者 6名	まるがめ競艇場 6ROKU
1月22日 (木)	香川障がいフォーラム 参加者 会員 1名 介助者 1名	高松・リハセン
2月11日 (水)	香川県ポッチャ協会設立総会 参加者 会員 2名 介助者 1名	高松・リハセン
2月25日 (水)	役員会 参加者 会員 4名 介助者 3名	丸亀・ひまわりセンター
3月3日 (火)	バリアフリー推進四国地域連合会議 参加者 会員 1名	四国運輸局
3月8日 (日)	代表者会議 参加者 会員 1名 介助者 1名	愛知県

愛媛頸髄損傷者連絡会

- 4月 9日 お花見会&今後検討会
- 6月7・8日 全国頸損連絡会総会兵庫大会
- 9月11日 愛媛・香川合同バーベキュー（雨天により中止）
- 9月29日 香川頸髄損傷者連絡会との合同バーベキュー
- 11月16日 四国頸損の集い2014
- 4月19日 春の食事会（参加者不足により中止）

今年度は、天候に恵まれなかったり参加者の不足により支部としての集まりをほとんど持つことができませんでした。全国総会へは初めて愛媛から4名もの会員参加がありました。四国としての集まり四国頸損の集いは11月中旬に開催することができました。11月中旬年一回の再開をするということが認識されつつあるように思う。

香川と合同の企画をはじめ、愛媛の企画ももう少し早い時期に年間計画を定め、四国・全国に向けて参加募集の告知を行っていきたい。四国4県の頸損者の繋がりを深めるために1月発行のフレンドシップ（愛媛会報誌）を四国の頸損者から記事募集し掲載することにしました。発送も会員だけでなく各支部への発送も始めました。四国内の支部連携も必要と感じ、四国頸髄損傷者代表者メーリングリスト（愛媛・香川・徳島の代表・副代表・事務局等）も始めました。

他支部との連携により、新しく頸損となった方のサポートへ入ることができました。医療機関の紹介・在宅生活へ向けたサポート等、受傷直後のサポートは非常に重要でした。

今後も新しく頸損となる方への情報提供も続け、会員の必要とする情報提供を行っていきたい。

福島連絡所(福島頸損友の会)

「2014年度活動報告」

2014年

- ・ 5月5日 機関誌『頸損』112号送付
- ・ 9月5日 機関誌『頸損』113号送付
- ・ 10月4日（土）「4都県 頸損・はがき通信 福島合同交流会」
交流会 15:00～17:00（14:00～受付開始）スピーチ・情報交換 等
（場所：福島市三河南町1-20「コラッセふくしま」5F 特別会議室）
夕食交流会 18:30～21:00
（場所：「コラッセふくしま」12F レストラン『ki-ichigo』）
- 5日（日）被災地視察（福島県相馬市、南相馬市方面）

- ・ 12月12日 機関誌『頸損』114号送付

2015年

- ・ 3月8日（日）「春の代表者会議」佐藤孝浩さんが代表して出席 13:00～17:00
（場所：名古屋市 御器所・車いすプラザ）

◆福島県の窓口として

「福島頸損友の会」ホームページ・下記アドレスにて活動状況、情報提供、絵画展等を掲載

<http://fukushima-keitomo.e-whs.net/>

「福島頸友の近況報告」

震災からあつという間に4年が経ちました。原発による放射能問題や風評被害も災いして、県内どこの地域でも介助の人手不足は深刻な問題です。そんな現状の中で私達福島メンバーは、一人一人、それぞれに離れた地域で日々奮闘いたしております。仮設住宅で不自由な生活を強いられてきた仲間も避難解除の見通しがつき、帰宅準備を始めているところですが、決して平坦な道程ではありません。私達は相変わらず会としての目立った活動はできずしておりますが、個々に有能であり、仲間としてお互いに力となり励みとなっております。

頸損者を取り巻く現状と課題

■障害者の権利保障

- ◎「障害者権利条約」の完全実施をめざし、「障害者差別解消法」の要領・ガイドライン作り、その他、障害者関連法の改訂等にも積極的に関与する。
- ◎各地域における「障害者差別禁止条例」制定に向け積極的に関与する。
- ◎女性障害者ならではの複合差別等の問題解決を求める

昨年1月に批准した、障害者権利条約は「障害者の人権及び基本的自由の享有を確保し、障害者の固有の尊厳の尊重を促進することを目的として、障害者の権利の実現のための措置等について定める条約（外務省HPより）」である。条約は「社会モデル」の考え方で作られ、締約国は条約の理念に沿った法律・制度、社会環境を整備する義務を負っている。

政府は批准に向け一連の国内法整備を進め、2013年に差別解消法、改正雇用促進法を成立させた。2014年度には2016年春に施行される「差別解消法の基本方針」を取りまとめ、本年度は対応要領が具体的に決められていく。対応要領の作成に当たっては、障害者・関係者を構成員に含む会議の開催、障害者団体等のヒアリングなどを行い、意見反映に必要な措置を講じ、対応要領は公表される。

基本方針では、差別解消に関する相談及び紛争の防止等のための体制を作らず、各自治体の既存の機関等の活用・充実を図り解決しろという。その実効性が問われるところだ。差別行為や、合理的配慮のガイドラインづくりにおいても、低いハードルで妥協されることが無いように注視し、私たち抜きに私たちのことが決められないようにしなければならない。

障害者が暮らす地域においても、条例制定等の障害者差別を解消する取組を推進し、確実に条約理念が実現される制度を作らねばならない。女性障害者の複合差別等も忘れてはならない。その他、障害者関連施策、法案改訂等にも声を届けなければならない。

障害者政策委員会では2016年2月に提出する、権利条約の第1回モニタリング報告（政府報告）の内容検討が始まる。障害者権利条約の完全実施を求めて、問題を掘り起して意見を届ける等、他団体とも連帯して行動したい。

■介助制度

- ◎2016年の「総合支援法3年目の見直し」に向け、長時間介護をはじめとする、頸髄損傷者の自立生活が十分に支えられる介助制度を求めていく。
- ◎65歳到達時の介護保険移行によるサービス低下を防ぐため、各地域における頸髄損傷者の介護保険利用状況を把握しつつ、障害者施策に対する積極的な意見発信をしていく。

国では来年2016年の「総合支援法3年目の見直し」に向け、福祉サービスの在り方等がワーキンググループや作業チームでの議論を経て、社会保障審議会障害者部会で審議されてきているところである。

「長時間介護や移動支援」、「支給決定」、「意志疎通支援」、「就労」、「高齢障害者の支援」等の多岐に渡る課題について検討が進められてきたが、「骨格提言」とは懸け離れた非常に幅の狭い改定に済まされかねない。そして、国が財政保障を拡充しなければ、各地域の市町村では負担が増え続けているなか、さらに制限が強められ、現状維持すら危ぶまれる状況である。

この間、四肢に重度な障害がある頸髄損傷者にとって、地域生活で欠くことのできない長時間介護についても支給量の地域間格差が大きく、自立生活の獲得が困難を強いられ、またサービス利用にも様々な制限が残っており、入院時介護の実現なども含めて、今後も粘り強い闘いが続けられていかなければならない。

また、高齢の障害者に対する支援の在り方では、実際の支援場面における課題と、障害サービスと介護保険制度との併給問題とが、大きな課題である。高齢の障害者は、高齢だけの人と共通の課題も多くあるが、個別性の高い障害サービスとしての「支援」が強く求められる。頸髄損傷者にとっては長時間介護が必要など、介護保険になじまない部分も多く、サービス低下とならないよう、パーソナルアシスタンスも視野に入れた介助制度の確立を求め、全国の他団体とも協働し闘っていかなければならない。

そのために、我々自身が各地域における障害者施策に積極的な意見発信を行っていく必要がある。

■交通・まちづくり

◎バリアフリー新法の施行から10年が経過し、公共交通機関や公共の建物では設備等の整備が進んだ。鉄道の駅舎では車椅子でも水平・垂直移動がスムーズに行えるようにエレベーターや段差解消スロープの設置等で移動しやすくなった。路線バスではノンステップバスが普及し、利用しやすくなった。その反面、十分な車椅子スペースがない車両、利用しづらい形状・サイズのエレベーター、多機能トイレがない等の問題もまだ多く見受けられる。障害者への無理解から事業者による理不尽な乗車拒否等は後を絶たず、サービス面でも問題は山積している。

◎大都市のバリアフリー化が進み、地方都市との格差は広がった。駅の無人化は移動円滑化基準の対象外の地方ばかりでなく、都市部でも進み、全国的な問題となっている。採算の合わない路線の廃止等、移動制約者にとっては深刻な問題が多い。

◎自治体及び鉄道会社やバス会社等の事業者との交渉・話し合いは継続して続けているが、障害者権利条約を批准し、差別解消法が制定されたことで、いつでも誰でも何処へでも公共交通機関、公共の建物を自由に安全に移動（利用）する権利の保障を求め、他団体とも協力しながらバリア解消努力を続けなければならない。

◎オリンピック・パラリンピック東京大会に向け、海外の好事例を参考に競技場、その他施設のアクセス検証等を行うDPIのプロジェクトチームに参画し、当事者の意見を提言書としてまとめ、関係機関に順次働きかけている。取り組みを通じてバリアフリー法見直しの必要性を提起し、世界水準以上のバリアフリー基準制定を目指している。

◎障害者等が安全かつ円滑に社会参加をしていくためには積極的に交通バリアフリー・まちづくりに参画し、当事者の視点による具体的で明確な意見、提案をはっきりと伝える必要がある。そのためには的確な提案を行うことのできる人材育成のためのバリアフリー研修等に参加して、スキルアップする必要がある。

■福祉用具(補装具・日常生活用具)

福祉用具などの生活支援機器は、尊厳の回復、自立生活に必要な不可欠なものであり、ユーザーのニー

ズ、身体状況、生活環境に適した製品が安心して使える形で提供がされなければならないと考える。

障害者総合支援法の自立生活支援給付、地域生活支援事業や、介護保険移行後もサービス低下しない貸与、支給制度とするとしているが、情報格差、判定基準格差、制度格差、財政状況による地域格差等により、必要な機器の取得に苦勞することが多い。サービス提供格差が生まれない国の確実な支援が求められるところである。

当会ではユーザーの求める福祉用具が適格、迅速、安価に入手できる製品開発システムの構築を求め、研究者、メーカーと交流協力、参画して、当事者の声が製品に反映されるように求め活動を続けてきた。

テクノエイド協会のHP「福祉用具ニーズ情報収集・提供システム」では、福祉用具に関する意見、要望、困りごとを、研究者やメーカーの技術者をつないで、製品開発、問題解決を目指しているが、当事者は声を届け大いに活用することが大事である。利用者の機器に対するニーズを適切にくみ取り、開発につながるシステムが充実すれば、多様な人材が育ち発想豊かな製品開発が期待される。

また頸損者が適切な支援機器を試用選択できる、専門家を配置した滞在施設や常設展示場の設置、レンタルシステムの充実を求め、無駄な買い物をしないように機器の選択をしなければならない。昨年度は、テクノエイド協会と住環境を考える合同シンポジウムを開催し、住環境整備における機器導入の課題について、様々な立場の人たちと考え、適切なアドバイスのできる人材が足りていないと認識、全体を俯瞰できるコーディネーターの育成が必要である。

◎自立を支える為に必要な機器が、的確、迅速、安価に入手できる制度を求める

◎ユーザー視点に立った製品開発を求め、積極的に参画してゆく

◎防災対策用品の開発・提供、人工呼吸器緊急電源等の確実な実施を求める

◎支援機器の適切な選択、使用方法を指導助言できる人材の育成

■医療関係

頸髄損傷者が生活を行ってゆく上で医療機関との連携は欠かすことができない。近年、脊髄・頸髄損傷の専門病棟・施設が次々に廃止されてきている。あわせて診療報酬の制度変更などにより、専門的なリハビリ施設で在宅生活に向けた医療やリハビリを受けることなく、知識不足のまま在宅生活をスタートするケースが増えている。頸損連絡会ではセルフヘルプ活動を中心に据え、県外支部とも連携し各地医療拠点の紹介、地域生活でのアドバイス等を行ってきた。

会員の中には支部連携医のアドバイスにより専門医療機関でリハビリを始め、リハビリを経て自立した在宅生活を送る者もいる。医療技術の進歩により高位頸髄損傷者が在宅で生活することも珍しくなくなり、人工呼吸器を使用し、医療機関と連携して自立した生活を送る者が増えている。しかし受け入れ病院が限られ、リハビリや在宅療養へのサポート不足、地域生活での訪問診療や訪問看護・たん吸引資格保持ヘルパーの不足により、スムーズな在宅生活への移行が困難な現状がある。

地域での生活を実現するためには、人工呼吸器管理の指導が行える医師、メンテナンスを行える技術者、吸引を指導できる医師・看護師、吸引を受け入れてくれるヘルパー事業所など、地域で医療活動をサポートできる体制が重要になる。あわせて、補装具・日常生活用具などの福祉機器も重要であるが、処方に関わる専門知識を持った医療関係者が不足し地域によつての差が広がりつつある。

地方で生活するためには、排便・排尿・褥瘡の管理などには、専門医療機関の存在が不可欠になる。

当事者から必要性を発信し、専門医療機関との連携により、地方での在宅生活への移行がスムーズに行えるように進める必要がある。

当会としても地域での自立生活を行うために医療機関・地域医療・行政・住民などとの連携を深めていかなければならない。

課題

- 頸髄損傷に伴う合併症に対応できる医療機関の不足
- 医療制度変更等による入院期間の短縮・リハビリ期間の不足
- 高位頸髄損傷者に対する在宅医療体制
- 補装具・日常生活用具に対する医療機関の理解

■住宅環境

重度身体障害者が、日常生活を円滑に営めるように住宅環境に関する情報収集・情報提供を積極的に行うが、法的支援が少なすぎる現況では問題に対する有益な情報を提供できないのが実際である。自立の理念に「自分が選んだ地域で生活すること」とある。自分が生まれ育った場所で暮らすには「住宅改修」が必要になるが、多額な費用を要する住宅環境整備に対して、現在の住宅改修助成制度は満足に及ばない内容である。

公営や民間の賃貸住宅を選ぼうとしても、社会参加（就労も含む）がしやすい市街地で交通の便が良い場所には、車椅子使用者が住みやすい構造の住宅や低所得層が選択できる家賃条件の住宅を探し当てるのは非常に困難である。住宅政策における障害者施策も遅々として進まない中での住宅選択の困難性こそが重度障害者の自立を阻んでいると考える。

昨年度、当会と日本リハビリテーション工学協会の主催で「住まう」をテーマとした合同シンポジウムを開催した。シンポジウムにおいても障害当事者・業者・関連職種間の連携や情報供給ネットワークの必要性、その課題として連携やネットワークが上手く機能していないことの解消が挙げられた。また長年これらの課題が解消しない現状を踏まえ、連携やネットワーク作りは「机上の空論」であるとの厳しい意見も出た。しかし、我々に必要とされるのは、やはり業者と家族と本人間のコミュニケーションを円滑にするコーディネーターの存在であり、障害当事者の視点に立って社会参加がしやすい住宅環境整備へ導ける中間ユーザーである。

上記を踏まえて当会が取り組まなければいけない課題は以下と考える。

- ・自立生活者の輩出と社会資源の拡充
- ・住宅環境問題に精通したコーディネーターや中間ユーザーの育成
- ・障害者の住宅環境問題の解消に理解を得るための講習会・勉強会の開催

※ 中間ユーザー：障害者と事業者の間に入り、最適な選択となるよう助言等を行う者

■所得保障・就労

障害年金、特別障害者給付金、生活保護、各種福祉手当等によって、厳しい自立生活を続けている障害者が多い。重度障害者ほど費用負担は増し、生活費を削って暮らしている。

生活保護制度は「生活に困窮する方に対し、その困窮の程度に応じて必要な保護を行い、健康で文化的な最低限度の生活を保障するとともに、自立を助長することを目的」としているが、不正受給の多発、財政削減によって、扶助費の引き下げや扶養義務強化等の締め付けが強い。生活保護制度は生活を保障するとはいえ、福祉的支援要素が強い制度だ。

障害基礎年金は自立した生活をするには不十分であり、就労機会に恵まれない多くの障害者は家族や生活保護費等の経済的支援が必要である。障害者が経済的に独立できる年金水準や社会手当支給等の根本的な所得保障制度改革が待たれるところだ。

雇用については改正障害者雇用促進法により民間企業の法定雇用率が2%に引き上げられ、差別禁止、合理的配慮の提供を行うことで、障害を持つ人が働ける場は増えるだろう。頸損者の場合は働き続けられるかどうか大きな問題である。障害を理解した職場環境整備・多様性のある就労形態を求め、当事者が求める合理的配慮を説明する能力が必要である。体調管理に苦勞する頸損者の就労環境がどれだけ良くなるか期待は膨らむ。個別事例の蓄積によって、頸損者の多様な就労形態が生まれていくと考える。

昨年、新聞報道で「佐賀市の職員採用試験に一旦合格した頸損者が、役所の一方的な能力判断によって職務遂行不能と判断され、正式採用前に解雇される」という事件があり、当事者からも抗議の意思表示を行った。今後の法施行に向けて、差別があった場合の救済制度の確立、合理的配慮を得るための制度整備が確実に行われるか注視していきたい。また福祉的就労においても、差別禁止、合理的配慮の提供が必要であると考えます。

誰もが成人したら経済的に独立して自立できる所得保障制度、雇用就労システムを、継続して求めていきたい。

2015 年度 活動方針提起(案)

■活動の基本的な考え方

全国頸髄損傷者連絡会では「You are not alone（一人じゃないよ）」を活動のスローガンとして、障害を持つ仲間や家族などに対してセルフヘルプを行ってきました。その活動の中で見つかった問題は、全ての障害者の問題として解決を目指し、課題によっては頸髄損傷者の枠を超えた問題として取り組まなければならないと考えています。

2014年1月、日本は障害者権利条約を批准し、日本の障害者施策を社会モデルの考え方で展開すると、世界に宣言し条約の理念に従う義務を負いました。障害を持つ人たちを権利の主体として捉え、障害者政策を進めると国は宣言した訳で、「私たち抜きで私たちのことを決めないで」と求め続けてきた私たちには願っても無いことですが、ことはそう簡単ではないと思っています。

私たちは、自分たちの問題を解決することが、社会の問題を解決することになると確信しています。障害者権利条約は批准しましたが、出来ることからコツコツとこれまでのように続けることでしか、真に自立（自律）して生きることのできる社会を作ることができないと思っています。

■基本活動

- 頸損者へのセルフヘルプ、ピアサポートを積極的に実践
 - ・各支部間の交流、支部のない地域での出張活動・招待活動等
- 頸損者の抱える問題を共有化し、問題解決の道を具体的に探す
 - ・代表者会議、支部間交流、頸損同士の交流によって問題の共有化を図る
- 情報を収集し、頸損者及び関係機関等への情報提供をより充実させる
 - ・機関誌・HPの内容充実
- 障害の枠を超えた各分野との交流・活動
 - ・日本リハ工学協会、大学・専門学校・高校など、分野別メーカーとの交流
- 他団体との統一行動
 - ・介助、交通・まちづくり、制度改革などの課題を協力して行政への要請行動等

■分野別活動方針

●障害者の権利保障

- ◎「障害者権利条約」の完全実施をめざし、「障害者差別解消法」の要領・ガイドライン作り、障害者関連法の改訂等にも積極的に関与する
- ◎各地域における「障害者差別禁止条例」制定に向け積極的に関与する
- ◎女性障害者ならではの複合差別等の問題解決を求める

●介助制度

- ◎2016年の「総合支援法3年目の見直し」に向け、長時間介護をはじめとする、頸髄損傷者の自立生活が十分に支えられる介助制度を求めていく

◎65歳到達時の介護保険移行によるサービス低下を防ぐため、各地域における頸髄損傷者の介護保険利用状況を把握しつつ、障害者施策に対する積極的な意見発信をしていく

●交通・まちづくり

- ◎障害者権利条約の「他の者との平等」を実現できる、誰もが尊重されるバリアフリー法を求める
- ◎世界的なバリアフリー整備基準である「IPC（国際パラリンピック委員会）アクセシビリティガイド」以上の社会のバリアフリー化を求める
- ◎国内のどこにおいても「誰もが、いつでも、どこへでも」安全に移動できる環境を求める
- ◎鉄道、バス、タクシー、船舶等が車いすで快適に利用できる空間構造を求める
- ◎交通事業者に対しては障害者に対する接遇教育の徹底を求めている
- ◎当事者の視点による意見を的確に伝えられる人材の育成を目指す

●福祉用具（補装具・日常生活用具）

- ◎自立を支える為に必要な機器が、的確、迅速、安価に入手できる制度を求める
- ◎ユーザー視点に立った製品開発を求め、積極的に開発参画してゆく
- ◎災害時の防災対策用品、人工呼吸器緊急電源等の確実な開発・提供を求める
- ◎支援機器の適切な選択、使用方法を指導助言できる人材の育成

●医療

- ◎頸髄損傷を理解した適切な治療、リハビリ、合併症治療のできる医療機関の充実を求める
- ◎人工呼吸器使用者の呼吸管理を指導できる医療専門家、呼吸器取扱業者や技術者の養成を求める。
- ◎入院期間による点数削減制度・リハビリ日数制限を見直し、安心して治療が受けられる制度を求める
- ◎高位頸髄損傷者が地域で安心して暮らせる在宅医療体制の充実を求める
- ◎頸髄損傷者を理解した補装具・日常生活用具の助言、選定ができる医療関係者の育成

●住宅環境

- ◎バリアフリー住宅への改造費助成、低利住宅改造費貸付制度等の充実を求める
- ◎公営住宅の十分な提供、民間住宅を借りる場合の支援サービス（保証人問題、改造費用、家賃補助）、入居拒否を一掃する政策を求む
- ◎住宅改造相談等に対応できる、住環境問題に通じたコーディネーターや中間ユーザーの育成を求める

●所得保障・就労

- ◎経済的自立を保障する年金制度、社会手当施策、生活保護制度、及び賃金制度等を求める
- ◎多様な就労形態が認められる雇用環境で、確実な差別禁止、合理的配慮の提供が行われること
- ◎職域拡大につながる高度教育機会、就労支援教育の提供、充実を求める

●女性頸損者の視点を活動に反映

- ◎女性頸損者のネットワーク構築、リーダー育成、外郭団体と交流しエンパワメント向上を目指す

収支報告書／予算案

平成26年度 全国頸髄損傷者連絡会 収支計算書

平成26年4月1日～平成27年3月31日

収入の部

科目	金額
前期繰越	265,621
本部会費	73,000
本部運営分担金	682,000
寄付金等収入	819,725
本売上代金	3,000
機関紙等売上代金	12,878
受取利息	83
	1,856,307


支出の部

科目	金額
団体加盟費	92,714
事務所使用料	336,000
事務諸経費	26,633
通信・発送費	129,274
機関紙等印刷・編集費	484,055
会議費	110,400
旅費交通費	100,040
雑費	15,293
次期繰越	561,898
	1,856,307

上記のとおり報告します。

平成27年4月20日

会計

篠田 義人 

平成26年度の会計について監査を執行し、収支は適正であり会計報告は正しく表示されていることを認めます。

平成27年4月21日

会計監査

三好 宏和 

平成 27 年度 全国頸髄損傷者連絡会 会計予算(案)

(平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日)

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
前期繰越	561,898	団体加盟費	95,000
本部会費	73,000	事務所使用料	336,000
本部運営分担金	680,000	事務諸経費	40,000
寄付金等収入	675,000	通信・発送費	135,000
		機関誌等印刷・編集費	485,000
		会議費	110,000
		旅費交通費	200,000
		予備費	50,000
		次期繰越	538,898
	1,989,898		1,989,898